

2014.7 No. 28



# 佐賀大学病院ニュース

## 患者・医師に選ばれる病院を目指して News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

### 新病院長 就任挨拶



病院長 森田 茂樹

4月から病院長に就任しました森田です。県民の皆さまの命を守る最後の砦として、また、全国のどの病院と比べても引けを取らない先進的な医療を提供できる病院として、更に本院をパワーアップさせたいと意気込んでいます。今年に入ってドクターヘリが稼働しはじめました。救命救急センターや集中治療部、手術部も一新されました。最新の設備を備えた内視鏡専用手術室や血管内治療と手術が同時に行えるハイブリッド手術室も整備されました。これら最先端の設備を備えた手術室で患者

さんに優しい新しい手術の件数が着実に増えています。最新のハードウェアは整いました。今後は、新しい器に魂を入れるべくソフトの整備・充実に力を入れたいと思っています。病める人と医師・医療スタッフとが交わる場が病院です。最善の治療が受けられることはもちろんのことですが、それと同時に患者さんに「佐賀大学病院に来てよかった」と言っていただけのような医師・医療スタッフとの信頼関係が感じられる病院にしたいと思っています。

### 副病院長就任挨拶



安全管理・中期計画担当 木村 晋也

平成26年4月1日、副病院長に任命されました。安全管理担当として、事故のない安全な医療を提供していくために、職員の教育やより良いシステムの構築を行います。また、中期計画担当としては、第二期(平成22~27)最終前年の平成26年度計画を着実に遂行すること、そして平成28年度から始まる第三期中期計画の作成に着手いたします。微力ではありますが、より安全な医療の提供、そして病院のさらなる改善に向けて努力してまいりますので、ご協力の程よろしくお願いたします。



卒後臨床研修・再整備担当 山下 秀一

4月から卒後臨床研修と再整備担当の副病院長を拝命いたしました。大学の主要な使命の一つに教育があります。生命を守るといふ大きな役割を担う一人前の医療者の育成には、卒前教育のみならず、一学生び続けるという、生涯教育への姿勢を身につけさせる良質な卒後教育が必須です。本院がこれまでに実行してきた質の良い医学教育をさらに発展させ、多くの研修医を育てていく一助となりたいと願っています。再整備の真っ只中にある病院の管理も重要な課題です。再整備期間中も診療の質を下げないように、また、完成時にすばらしい病院になるように努力いたします。皆さまのご支援をよろしくお願ひ申し上げます。



経営企画担当 馬渡 正明

平成26年4月1日付けで副病院長に就任いたしました。経営企画担当兼手術部長という肩書をいただきました。本院は現在、再整備の真只中で、平成29年度まで工事が続きます。老朽化した病院が新しくなるのは、患者さんはもちろん、われわれ病院スタッフにとっても喜ばしいことであり、気持ちの明るくなります。北棟や、南診療棟は本年1月から運用を開始しており、最先端の医療が提供されています。患者さんに安心して治療を受けていただけるように今後とも努めていきたいと思っております。



医療業務担当 長谷川 正志

4月から医療業務担当副病院長に就任いたしました。病院業務の改善と患者サービス向上に関して病院長を補佐し、業務全般を把握することが私の役割です。現在、本院は再整備の真只中ですが、入院患者さんに快適な療養生活を送っていただけるよう、また、できるだけ効率よく外来の診療が実施できるように、将来を見据えた病院づくりに積極的に参画してまいります。厳しい医療状況の中、高度急性期病院としての機能を果たすべく、全スタッフが連携してチーム医療を推進し、患者さんやご家族に納得していただける医療、本院ならではの医療を目指して努力いたします。

### 造血幹細胞分離保存センターの設置

佐賀県地域医療再生計画事業の支援により、本院に造血幹細胞分離保存センターを設置いたしました(センター長・木村晋也副病院長)。

悪性リンパ腫や多発性骨髄腫など難治性血液がんの治療として、造血幹細胞移植療法が行われています。これまでは、移植時に必要な造血幹細胞は、日本赤十字血液センターが受託して分離・保存を行っていましたが、平成26年度からその受託業務が行われなくなりました。本院をはじめとする県内医療機関で幹細胞の分離・保存体制を有する施設はなく、早急に造血幹細胞移植を含む再生医療を行う設備の充実及びスタッフの育成が必要となりました。そこで佐賀県に申請したところ造血幹細胞の分離・保存センターの設置が認められたものです。

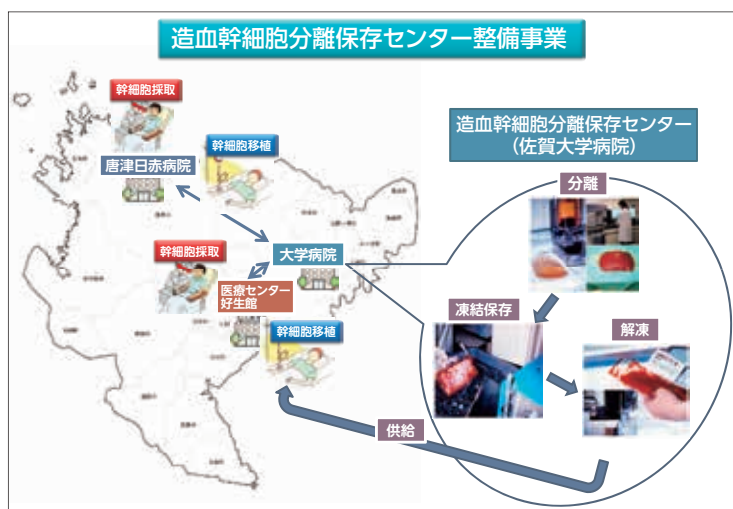
現在、造血幹細胞移植を実施している県内医療機関は本院を含めて3施設であり、施設間で連携を取りながら、幹細胞の分離・保存業務は本院で行っていくこととなりました。日本赤十字血液センターが造血幹細胞の分離・保存を行わなくなったことで困っているのは全国共通ですが、自治体が支援してセンターを設置したのは佐賀県です。

副センター長

教授 末岡榮三朗



が初めてだと思えます。難治性血液がんの患者さんが、適切な時期に造血幹細胞移植を受けられるようにセンターの一員として一生懸命取り組んでいます。



### 就任挨拶



耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 倉富勇一郎

平成26年4月1日付けで、佐賀大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の教授に就任しました倉富勇一郎でございます。

耳鼻咽喉科領域には生命維持に必要な気道・消化管の入口があり、異物排除のための免疫器官も集中しています。さらにこの領域は聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚などの感覚や音声・言語・嚥下機能など、社会生活やコミュニケーションに必要かつ重要な機能を担っています。私たちは、こうした機能の障害を来す様々な疾患に対し、県内外の医療機関や他診療科との連携をとりながら、安全で高度な医療を提供していきたいと考えています。私が専門とする咽頭・喉頭、鼻・副鼻

腔、口腔、頸部に発生する頭頸部がんの治療においても、がんの根治とともに音声・嚥下機能や顔面・頸部の整容の保存を図っています。早期がんに対しては短期間で低侵襲な治療として機能保存手術に取り組んでいますし、放射線治療の選択も可能です。進行がんでも抗がん剤や分子標的薬を同時併用する化学放射線療法によって機能保存を目指すとともに、根治切除手術では再建手術や機能回復手術により機能の維持に努めています。各診療科や各部門の皆さまとの連携を深め、チーム医療により、頭頸部がんをはじめとする耳鼻咽喉科疾患の診療を行っていきたくと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

新病院長・副病院長就任挨拶

造血幹細胞分離保存センターの設置

末岡榮三朗 就任挨拶

倉富勇一郎

# 診療科紹介

## 循環器内科



診療科長  
野出 孝一



▲循環器内科のスタッフ

循環器内科は、昭和56年の開院当初より、内科学講座循環器部門として、診療、教育、研究に携わってきました。大学病院とはいえ、佐賀県における心疾患の救急対応、特に心臓カテーテル治療まで可能な施設は限られているため、急性冠症候群や急性心不全、不整脈といった救急患者は、積極的に受け入れています。

当科の入院患者数は昨年度941名で、そのうち緊急入院は4割を超えています。

外来患者も増加傾向にあり、昨年度8956名、うち712名が新患で、虚血性心疾患や末梢血管疾患、発作性心房細動などの不整脈、弁膜症、心不全(心機能異常)、肺高血圧症や成人先天性疾患など循環器全般にわたって診療を行っています。

糖尿病患者の無症候性心筋虚血に関しては、医師会の先生方と協力して頸動脈エコーでIMT肥厚のある症例に対して冠動脈CTや運動負荷心筋シンチ等で積極的に冠動脈疾患のスクリーニングを行い、20%超の症例で経皮的冠動脈形成術(PCI)または冠動脈バイパス手術(CABG)の適応となりました。

また、糖尿病や透析患者さんにおける重症の末梢動脈疾患も急増してきており、下肢血管内治療も増加傾向にあります。

不整脈に関しては、心臓電気生理学的検査(EPS)、ペースメーカーや植込み型除細動器(ICD)/両室ペースティング機能付植込み型除細動器(CRT-D)などデバイスの植え込み、経皮的カテーテル心筋焼灼術(カテーテル・アブレーション)治療

佐賀県における重症心不全治療にも重点を置いており、補助人工心臓(LVAD)を装着した症例も少ないながら経験を重ねています。今年、本院は植込型人工心臓実施施設に認定されました。今後、体内式の補助人工心臓の植え込みが行われるようになれば、これまで長期入院を余儀なくされていた重症心不全、移植待機の患者さんの、自宅退院・外来通院も可能となるため、大変期待しております。



▲心臓カテーテル治療の様子

# 連携病院紹介

## 〔病院の紹介〕

ひらまつ病院は昭和58年開院、病床数190床(急性期・HCU含む78床、亜急性期10床、回復期リハ54床、重症難病対策棟48床)、常勤医師は計21名(本院16名)の病院です。在宅療養支援診療所、老人保健施設、特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム、小規模多機能居宅介護施設を併設しています。

昨年は開院30周年を迎え、新病院移転開設へ向け新たなスタートをきりました。「常に患者様中心の医療を考え、迅速な対応で接し、地域ニーズにあつた高度な開かれた医療を目指し、笑顔、和、思いやりを持って社会に貢献する」という病院理念を実践する」という病院理念を実践する」

## 〔本院との連携〕

佐賀大学病院にはいつも患者様を快くお受け入れいただき、また、在宅療養支援診療所を含め、多くの患者様をご紹介いただき、心より感謝いたします。回復期病棟は本年6月より神経内科医が専従勤務となり、これまで以上に安心してご紹介いただけると思っております。

## 医療法人 ひらまつ病院

理事長  
平松 克輝

病院と診療所、関連施設で密に協力し、患者様、ご家族のご希望にお応えできるよう、新病院建設を機にさらに体制を整え、精進していく覚悟です。

今後ともご支援、ご指導いただけますようよろしくお願い申し上げます。

(文責)総合診療部長  
石井 賢治



▲平成27年度中旬竣工予定

# 佐賀大学病院でTAVI開始 手術せずに心臓に人工弁を植え込み

## 心臓血管外科

教授 森田 茂樹



心臓弁膜症に対する画期的な治療、TAVI(経カテーテル大動脈弁治療の英語の頭文字でタビと読みます)が本院で成功しました。心臓手術をせずに重症の大動脈弁狭窄症という弁膜症の治療ができるようになりました。

TAVIは、足の付け根の血管からカテーテルという管を心臓まで入れて、その管に畳み込まれた人工弁を狭くなった自分の弁の位置で押し広げて弁膜症を治療しようとするものです。胸を開けて心臓を止める必要がなくなりまし

この3月に本院での第一例目のTAVIを行い、今まで5例全てに成功しました。

心臓弁膜症の手術では、胸を開いて心臓を止めて弁を取り換えた後、修繕したりしますが、大がかりな装置を使わなければならないので患者さんの負担が大きく、超高齢者や余病の多い患者さんでは、手術ができないこともありま

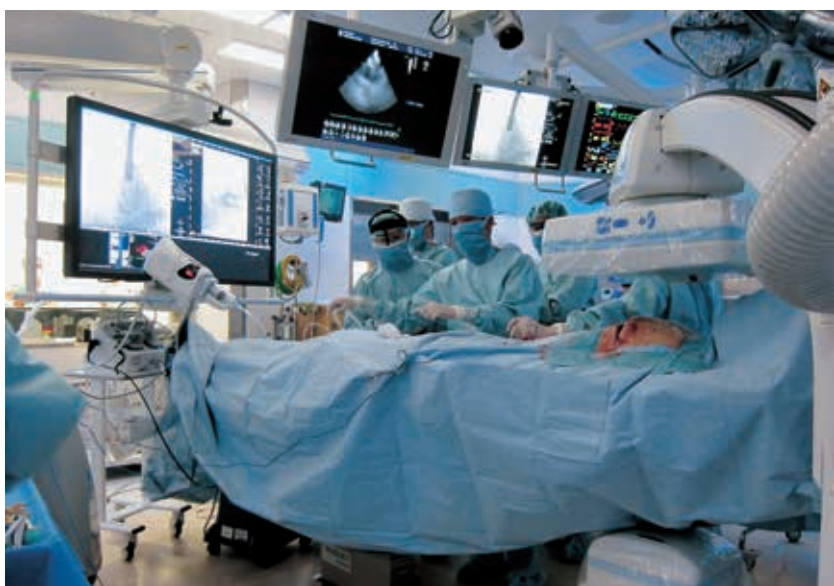
本院ではTAVIの施設認定を受けるために、ハイブリッド手術室と呼ばれる最新の手術室を設置すると同時に、外科医だけでなくいろいろな専門の医師や医療ス

スタッフを集めたハートチームを結成しました。

な一週間前後で退院されています。心臓手術を受けることができなかつた患者さんにとっては大きな福音で今後TAVIが増えていくことが期待されています。今後ひと月に2〜3例のペースでTAVIを行う予定です。

タッフを集めたハートチームを結成しました。

今後ひと月に2〜3例のペースでTAVIを行う予定です。



▲ハイブリッド手術室でのTAVIの様子

# 医療の質・安全大賞 優秀賞を受賞しました

医療安全管理室

平成26年5月20日に大阪大学にて行われた第24回国立大学附属病院医療安全管理協議会総会で、医療安全・医療の質の向上に関する取り組みを共有し医療安全の一層の推進を図るため、第1回 Patient Safety & Quality Award が設けられました。本院からは後藤昌昭MEセンター長が「生命維持管理装置の動作情報及び警報の一元管理システムの開発と臨床応用」という演題で発表し、優秀賞を受賞しました。

